

令和4年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立石薬師小学校

NO. 1

| 評価項目 | 本年度の活動(具体的な手立て)と指標 | 学校関係者評価 | 今後の改善点 |
|----------|--|--|---|
| 確かな学力を育む | <p>1 授業改善・学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働的な授業展開 ICTを活用した授業で意欲向上、学び合い →アンケート、学調、みえスタで検証 <p>2 家庭学習の定着・学習ボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の充実、自主学習指導 →アンケートで検証 学習ボランティアの活用→学習ボランティア数と内容 <p>3 読書活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級文庫の充実 ・巡回指導員の活用 →アンケートで検証 <p>(成果と課題)</p> <p>1 全教員が授業研究や研修で授業改善に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業でICT機器を活用し、Chromebookを活用した授業が増加した。 学力調査分析の研修を実施し、学力向上に取り組んだ。 <p>2 家庭学習の手引きを配付し、Chromebookを持ち帰った家庭学習で家庭と連携しながら家庭学習の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年生以上が自主学習に取り組んでいる。 <p>3 読書活動が改善傾向にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級文庫を増冊し、読み聞かせや巡回指導員の活用を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> 取組結果により全国平均に比べ学力向上がある。 欠席した児童へのオンライン授業は良かった。 過度なICT活用にならないようにしたい。自分で考える能力を持たせるために、辞書を引く、教科書で探す、本を読む、文章を作る、自分の考えをまとめる等の力を身に付けてほしい。 人数の多いクラスは学習ボランティアの協力が必要。 ボランティアの活用もコロナ前に戻りつつある。積極的に協力してくれるボランティアさんが多く、ありがたい。 ボランティアを有効に活用している。 家庭学習の習慣が高まってきている。 家庭学習については家庭との連携をもっと丁寧に行い、家庭学習を定着させることが必要。 読書活動が改善傾向にあるのは良い。 学級文庫の本は古くなっていくので今後も少しずつ入れ替えをしてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 学級文庫を定期的に入れ替えていく。 読書の時間を定期的に設けたり、読書習慣を各学期におこなったりする。 |
| ICT活用 | <p>1 授業でICTを活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書や様々なアプリ、映像等でわかりやすい授業 授業でオクリンク等を使用して双方向でやりとりをする <p>2 児童のChromebookを日常的に活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年から6年まで学年に応じてスキルを身に付ける。 毎朝、健康観察を入力させることで身近なものにする。 <p>(成果と課題)</p> <p>1 全教職員がICTを授業で活用した</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会の参加や他校の情報を共有することで、Chromebook活用のレベルが上がった。 ICTサポーター活用で情報モラルの授業を行った。 <p>2 Chromebookの持ち帰りを含め、日常的に活用できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生以上の学年が毎日Chromebookを持ち帰っている。 1、2年生は長期休業や週末に学年に応じて持ち帰っている。 日常的な持ち帰りにより、Chromebookによる宿題の工夫を行い、児童の学習意欲につなげた。 | <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した視覚的な授業や参加型の授業は考える力がつくと思われる。 Chromebook導入後、飛躍的な活用がされている。使いこなしが一層上達している。更なる進化を望む。 児童が楽しくスキルを身に付けている。 Chromebookを持ち帰り、宿題で活用が進むのは良い。 長期休業中のパソコンの利用学習は全ての児童が利用できるのが良い。 情報モラルのトラブルに対して定期的な指導が必要であり、情報モラルの学習は今後ますます重要になるので継続してほしい。 情報モラルについては児童だけでなく、保護者に対しても必要ではないか。 コロナ休みの児童へのリモート授業の周知を徹底すべきである。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後もICT活用を積極的に活用していく。 低学年からChromebookを積極的に使わせていきたい。 情報モラルに関する指導を定期的に行っていく。 情報モラルに関する発信を、保護者に対しても何らかの形で行えると、家庭と連携しやすい。 |
| 不登校 | <p>1 自己肯定感アンケートを年3回とり、未然防止を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの自己肯定感をつかんで声掛けを行う <p>2 SCや相談機関とつなげてきめ細かな支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールライフサポーターを活用した児童支援 →30日以上欠席人数 <p>(成果と課題)</p> <p>1 自己肯定感アンケートを含めた児童把握を行い、一人ひとりの支援や学級づくりに生かした</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師がきめ細かな声掛けをしたり、できた体験を増やすことを意識した。 <p>2 子ども、保護者にきめ細かな支援ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> SC、SRS、支援員、相談機関と連携して支援ができた。 支援会議をもち、保護者と学校が方向性を揃えた。 1学期不登校傾向の児童が2学期から毎日登校できている。 30日以上不登校欠席0人 | <ul style="list-style-type: none"> 30日以上不登校0人は素晴らしい、評価できる。これからも悩んでいる児童に寄り添った支援をお願いしたい。 自己肯定感を持つことは心の余裕につながりいじめを防ぐことにつながる。年3回アンケートをとって自己肯定感を把握してきめ細かな指導に活かすことは評価できる。 不登校が必ず悪いわけではない。家でもオンライン授業として学べる環境があれば良いかなと思う。子どもの心に寄り添う環境づくりが大切だと思う。 子ども一人ひとりに対してきめ細かな声掛けが必要だと思うが、人数の多いクラスでは、先生の負担も増し、気づかれない子もいるのではないかと不安である。 | <ul style="list-style-type: none"> 人数の多いクラスにはTT支援や学習支援員などを活用し、支援が行き届くようにしたい。また、保護者と連携を密にし、途切れのない支援を続けていく。 安心安全な学級づくりをしていく。 |
| 地域連携 | <p>1 「信綱カリキュラム」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 一朝の朗唱をボランティア活用 →短歌づくりを全学年で行う <p>2 地域学習・キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域人材の活用、石明協と連携したボランティア活用 <p>(成果と課題)</p> <p>1 「信綱カリキュラム」で学習の幅を広げた</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアを活用しての朝の朗唱や信綱カルタ大会を行った。 日常的な短歌作りで力がついている。 <p>2 ボランティアを活用し、「石明協」と連携して地域学習・キャリア教育ができた</p> <ul style="list-style-type: none"> 校区探検、昔の生活学習、信綱さん理解に歴史文化部と連携した。 田植え、稲刈り体験ができた。 <p>3 白鳥中校区学校運営協議会を開催し、中学校区で子どもを見守る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 他校にない信綱カリキュラムの活動が実施され、地域学習と共に地域連携は評価できる。 「信綱」という全国に誇る財産であり、地域人材の協力もあって、うまく活用できている。 信綱カリキュラム・短歌作りは子どもたちの興味が広がり地域に根ざして良い。短歌作りは子どもたちの表現の向上につながり、感性が豊かになる。 石薬師の歴史的な文化物や偉人を授業に取り入れていくと良い。 学校だよりなどにより、地域への発信をすることでボランティア活用や地域学習につながっていく。 「石明協」における学校区の位置づけも高まってきている。 地域の方に見守られて児童は安心して小学校に通うことができ、学校と地域が連携して子どもを育てていると感じる。 学校運営協議会の議論も積極的に行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も朗唱やかたるた大会をはじめ、地域の方に協力をお願いしていきたい。 短歌集会、短歌作りは、地域への興味につながる。今後進めていきたい。 |

